



古今百物語評判

三

^ 13
3116
3



百相伝評刺書之目録

才一 卷別加茂初長皇門前北松童子化事
才二 道隆神の教的此事

才三 天狗の沙汰 付 涉石獄来聞持の事

才四 後神の事 付 省陌の事

才五 貧乏神并 韓退之送窮文 付 范文正公の事

才六 山姥の事 付 一休の相伝 再 狂言の事

才七 比叡山中堂油盗人と云化相 付 善路の事

身八

佐野景常のこゝろやたるの付親友は平比事

百拙海深刺考之三

身一

冬別が後那長真寺門前松童子に付るもの

此の人れいとも某生玉の三河ありて内陸より國中へ

ゆきさかる事ゆりしに加茂郡に長真寺とP寺あり

門前にむししある松二本は産るが於此にちた海深に

をさゆれんれは松は二龍松とPのけ松大木に

いづまに時より極を区しともゆきなるはけりて寺

へ童子二人ありて云々うもまきるけき此者ありけり

根子此傳をて硯紙しゆふの別紙に紙張をて

て出づるは一首此紙を紙をさけけり

百拙海深刺考之三

客路三川風露秋

二龍松樹千年寺

袈裟一角事勝旋

古殿苔深僧白頭

此の寺は三河の松樹に於てありて其の樹は古くして
さだせんとん彼門あた松の本陰よりとんて跡く
なかりけしハ皆人松の精れ童子となりてまるとり
ちりといふ人んといけしハ先生神志といふくハ事
あさ海ののりに付くそたれしはさりさねと遊信乃
為信不化とる事ハ化生とりなして月おにま
あつなり朽る本れ蝶とありくこれる事ハ雲に
どゆ事何とてん日お通なり遊更松ハ表本れ長

みく子久とと抱なる移之君子此徳に比くそハ童子は
成んをさとあらんし既童子とてあつなりハ寺ハ
に信子のなれハ詩とけはくそハ海ハあり古と桐
の末れ人お慶し系は既智通とてし出家れといしけ
事と海はし此書おとんてり

才二 道陸神の發的此事

先生此云く世人のいふあるき渡神とてハ道祖神也
又ハ渡神とて云は極海のほくつなりん事渡れる神
なり虎傳は祖はと云はとハ神とありゆる和事には
ちありれ神とてあり袖中抄お云みちありの神とて

心なり世に安んずるにまじりてはちゆり神にまじりて
ぬさむおひうせやまんとふかんと後り隠岐の國
支利の邊よりふあまの宮より神たり
とて右今の序に逢坂ふまの向て行るや侍り
げりなりありにしにち萬葉の子孫祖とて人
とぬくんに死のひは後世の世にわたりて
をせりかくまはるゝあるがら萬葉此子孫祖と
祭りたるは何れも久しきことわらわさる
むかひにせしむるに世に思ふと系と女童の云
なほしむるに世に侍り石佛とて七代位と

はし人成能と世に後世とありはりて
こゝろに人の志はしれ石とて必仏作とて
てその下に亡者此は名成志をせしむる塔毎に名号
とあり侍りておしその法名なまの星霜ありて
るまを消しせゆるに佛所中人鼻け磨けな
やうのうりける紙字侍りたり此末くもんなく
うせくまに侍りて改にりありてされく何世の人
志ありて是れ末は石佛とのみみ人なり
思ふは佛を授けたる系の中にも波羅密れ侍
なり善薩常不怪の法身成具の身にして仏



おおわく人よ 携りて世に用らるる也
 せしむるふるや 妖なる物も石佛も
 此もちかへるべき子孫もなごし者
 て天地の間に流轉せり亡魂時
 或る瘡鬼も形も又も疫神も
 竹うかりしをきかぬ世も瘡疾疫病
 時をさし揚お携りて石塔を
 半るれ枯骨は門戸にけり甚
 ゆるみあり或人の云くこれ佛
 物事あり何なく是れ汝志
 石塔

厭しむ所の心魂は、いよいよ先うはなり云く、
 即ちその路に、（その心魂の） 心魂を、（その心魂の） 心魂を、（その心魂の） 心魂を、
 かまざるにや、云々、（その心魂の） 天地の間、（その心魂の） 天地の間、
 の二氣なり、（その心魂の） 二氣なり、（その心魂の） 二氣なり、（その心魂の） 二氣なり、
 乃、（その心魂の） 乃、（その心魂の） 乃、（その心魂の） 乃、（その心魂の） 乃、
 徳化の、（その心魂の） 徳化の、（その心魂の） 徳化の、（その心魂の） 徳化の、
 脾胃、（その心魂の） 脾胃、（その心魂の） 脾胃、（その心魂の） 脾胃、
 おろろ、（その心魂の） おろろ、（その心魂の） おろろ、（その心魂の） おろろ、
 の配、（その心魂の） の配、（その心魂の） の配、（その心魂の） の配、
 お、（その心魂の） お、（その心魂の） お、（その心魂の） お、
 あり、（その心魂の） あり、（その心魂の） あり、（その心魂の） あり、

亦、（その心魂の） 亦、（その心魂の） 亦、（その心魂の） 亦、
 て、（その心魂の） て、（その心魂の） て、（その心魂の） て、
 二、（その心魂の） 二、（その心魂の） 二、（その心魂の） 二、
 かり、（その心魂の） かり、（その心魂の） かり、（その心魂の） かり、
 心、（その心魂の） 心、（その心魂の） 心、（その心魂の） 心、
 を、（その心魂の） を、（その心魂の） を、（その心魂の） を、
 又、（その心魂の） 又、（その心魂の） 又、（その心魂の） 又、
 こ、（その心魂の） こ、（その心魂の） こ、（その心魂の） こ、
 心、（その心魂の） 心、（その心魂の） 心、（その心魂の） 心、
 人の、（その心魂の） 人の、（その心魂の） 人の、（その心魂の） 人の、

人々海を渡るに舟をりぬけ何んかありのほじかひる
る理法知りて人々をさへわかれわかれに只そ傳へて
佐作とらるるも志持しは侍なりその切は
者にあり其徳はを傳はれにのちる地なる也

身三 天狗の所法 侍る嶽東園持の事

入の云く物とらふ地はとの世に能くあらにそ形
成見るとふ者なれどもいふへりそもて
と給ふと云又れを遊しと物をもあへて所
物中をさしはしにわたりし事れは侍るに侍
岩山小松垣氏某のた物成りてはわたりて

の國智道とらふ出家修むる嶽東園持の
法成りては侍るにわたりし事れは侍るに侍
は成りては侍るにわたりし事れは侍るに侍
しけるに七目わたりし像に大風吹来たりと
彼來り侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍
をればしに侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍
あやかりありて因縁より彼侍るに侍るに侍
とて侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍
目じし侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍
と一日の内は侍るに侍るに侍るに侍るに侍るに侍

そけりたるをわやしけり交れらるる事におは
其外家えあくと磔歩事度とありいなる
術とゆふのに鬼角をわくくゆりとのへ先
生がく天物とゆふ名へはゆにしまんぶの權を
歎の夫名よる物とゆふことし類にわらば又星の
名よ天物星やふふほし史記天官書天文志等た
見く此ともいふなり星とてえのりじと鬼魅とのひ
魔れ障得なるとゆふ家傳ゆて物のゆりなりと
是皆ゆふ幽谷よるとむ鬼魅の類なりむく新に
のりを多とゆふ力なる物あり其ゆとて試みるは

瓶は百倍より本紙打定とゆふゆじゆ紙は
は大小の才紙現たり順が和名集よあはれくは
と和利と歎れは入りゆふにけふの天生唐土
の魔れ類と一ありとあはれとめ事とあり此山谷の
氣よりまはるる雨のよかりてまはるる紙ゆは
見ざらんゆふのよ火より変化ゆなればかゆし世俗
を高坊沢高坊なるとゆふ山伏のゆに云けゆる
はともゆふを思ひえれ山鞠るなるとゆふ出家に
住すなまはるる七月お三福川の春とありて熱丸
汗振るるとゆふ人間とて思はるる氣に清きと

百の巻の末の



百物語 龍打 卷之三

七

嗚呼これほしう哉もやせハ熱丸哉のびあむとまれを
 ぞいふもつら心哉あてつひななりとさくくは女性
 らる人倫をさあよあるハ是純陰の妻より生る
 なまきバ人倫をさあよあるハ是純陰の妻より生る
 せつらあまをそ術とすすく公あや侍んされバ
 浅る海の小いともれとわりなんし又天物解云
 事あむくを狸のまもつなりよし古き文にんをり
 狸と教一煮くらくひてうし先四言なぞをれを
 そりとのぼくをびよし著因集に見たり孔子の悦
 びを悦力乱神をりところを何さるあなれハケ後

百物語 龍打 卷之三

七

類は似たり沙汰をうりごとたぐ人などありしに
性事とのおのづから消らるるにせしむるは
才田 勢神の事 付 省酒の事

かぶより同く云せは勢神と云ふものありてたけり
内に居るものやうなる物の氣一つをさして
人家の形はけしきさうりて人刀はぬ
さそ切もしきば勢多あはきあるとありけり
ゆらりといふはけさうとひあると云ふもの
と云ふ先生言ふにけり是世界の形は勢多
靡く物なりしに何れもことと物ありしに

必は生る陽の精八月となり陰の精八月と云
此精の量と形と一なり人お小いばる物なり
を集るに及くを精なりと云ふは又同云く
子母後中との西暦はけり
仙術のむらして青より戸のしむるは
お輝と似る虫のういこのごとくなり子母
おをさるるやれは母必らるるは
母は血気とあり八十一の勢なり子母血気
後おぬくその一方は勢なり市に
子母は勢なりぬるは勢なり

親しむつり子母鐵成蓋惠食と唐の八徳に
 とびのけゆるるれど家物あくる惟公見しこと
 ゆるるるを務の起るを印此處さる天小なる人
 肉の方なる地あさるるを後にしあさる女婦
 の世はゆるるる中物あくる天皇の時
 務物けるるる又八開基太平力を勝室元室通
 室なるる務あさるるにしあさるる年号法加て
 名とせり開元清和の類をかりじしり類
 勢出来てる古さるるし時あわり又新舊
 お月いらゆる政とわり皆を時のほしとに臨み

親しむつり子母鐵成蓋惠食と唐の八徳に
 とびのけゆるるれど家物あくる惟公見しこと
 ゆるるるを務の起るを印此處さる天小なる人
 肉の方なる地あさるるを後にしあさる女婦
 の世はゆるるる中物あくる天皇の時
 務物けるるる又八開基太平力を勝室元室通
 室なるる務あさるるにしあさるる年号法加て
 名とせり開元清和の類をかりじしり類
 勢出来てる古さるるし時あわり又新舊
 お月いらゆる政とわり皆を時のほしとに臨み

小衛也又殊の殺と九十六多にせし事いづ道の
 時より定つしとと見え来はし而云あくと時とあるは
 あり九十多或八十多あ十七多なることありあまは
 省簡い伝はし明揚升菴の舟船惣録を見たり
 才又 貧乏神 韓退之送窮文范文正公抱朴事
 阿又の云云地のより云々の海西ありれさかめて
 まわし者何りもたじまふ紙もるがごとくくも
 と他小の心年と公ふまうびとやせんかや何
 らむと身れやとあそふ業はけりし何れ何れ
 能く肩の上よりみさざり如抱朴ありあわげん事

人形あく目鼻口舌とを形むより彼智者たり
 て汝何者なれば家者なりあつと云へる云
 世といふる貧乏神はく目治るれは此身に任分
 者なりと云へ貧乏神はくあまは神と云ふ
 勢友と云ふ目治はるあまは神と云ふ海あは
 けり目治んせりき向はりたるあまは神と云ふ
 因縁ありし打殺してと控へたりといふと云ふ
 ありしはくこもけやあまは神と云ふ海あは
 りあまは神と云ふあまは神と云ふあまは神
 此に形はくこもけやあまは神と云ふ海あは

此を諸方^{しよ}に貧乏^{ひんぱ}之神^{かみ}はとまもむたうへに此^こは
 ちこ^ち新^{しん}安^{あん}神^{かみ}どもとのまき^{まき}よりははらひ^{はら}ぬ^ぬ
 雨^{あめ}なく^{なく}湯^ゆなく^{なく}あ^あゆ^ゆる^るは^は彼^{かの}者^{もの}具^ぐさ^さめ^めく^くあ^あら^らせ^せ
 ら^らせ^せら^らり^りま^まり^り事^{こと}れ^れは^は若^{わか}し^し神^{かみ}は^はた^たも^もあ^あの^のバ
 を^をた^たり^りと^とは^はり^りと^とは^はり^りと^と者^{もの}は^はく^く直^ち座^ざは^はと^と同^{どう}け^けき^きバ
 先生^{せんせい}海^{うみ}の^のい^いく^くは^は神^{かみ}と^と若^{わか}鬼^{おに}と^と名^な付^{つけ}ら^らし^し人^{ひと}の
 貧^{ひん}富^ふの^の天^{てん}命^{めい}の^の稟^{れい}受^{じゆ}の^のあ^あつ^つく^く落^{らく}さ^さに^によ^よれ^れバ^バ聖^{せい}賢^{けん}
 君子^{くんし}は^は法^{はふ}を^を西^{せい}く^く智^ち魚^{ぎよ}ぬ^ぬの^のと^とい^いた^た如^{ごと}何^{なん}を^をす^すり
 る^るり^り如^{ごと}孔子^{こうし}が^が淵^{えん}曾^{そう}参^{さん}原^{げん}意^いの^の顔^{がん}あ^あげ^げて^ての^の如^{ごと}か
 魚^{ぎよ}は^はら^らせ^せと^とあ^あら^らず^ず者^{もの}を^を強^{つよ}く^く負^おけ^けた^たり^り富^ふは



百神河神集卷之三

十一

東じして... 天運に... 大儒を... 正月... 宿怨... 行... 宛...
東じして... 天運に... 大儒を... 正月... 宿怨... 行... 宛...
東じして... 天運に... 大儒を... 正月... 宿怨... 行... 宛...

文... 後... 家... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文...
文... 後... 家... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文...
文... 後... 家... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文... 文...

...

とわらふにほして得りよふし懸ゆるくりてふらふ
ざとそれくにありせりふは古々とありしは親
たはらふくは者にのらふはわてゆりゆとりたれ
れ文正と彼女もも力おしぬさくそは
文正公伴出らるるはけ別は晋の王後之の石碑あり
是と石どりにうの何れを教と書堂一行おら書
後より長しそれと衆人の是とらふはわらうら
おきも後たれの公書とそ別を石標百枚
とうらありなるは紙硯とそそののひ流り所
の目打りよへとそそを造に後付とそ流の

その西へ文正公と法光に出りよふとそとそとそ
像よと氏とそとそとそとそとそとそとそとそ
の石碑一箇はが西晴くは見え八石碑微塵は
その何れへ死んでんがとそとそとそとそとそ
の交とそとそとそとそとそとそとそとそとそ
るり有りぬ法よとそとそとそとそとそとそとそ
かゝる法とそとそとそとそとそとそとそとそとそ
と及ぶぬのなるとそとそとそとそとそとそとそ
巡りしとそとそとそとそとそとそとそとそとそ

才六 山姥の事 付 一休持世再相宗の事

又同じく世よ山姥といふ物ありて人どころよ又
 一人の女房に付る物ありて色物ふがたはまよ
 てはや石室といふとあるふ先生傳といふく山
 姥といふ源山崎谷の鬼魅の精といふ世男
 忠ハハ人ありけあわきハハ真まのそら其のわい
 海ありくハ鬼魅の精ありはこよあは併
 世よのふハ新田姫山姥といふ日本れまを
 たりしそ名も付る志のうさめをにいふ
 高うと系つむぐに陰の曲舞あも洞ふなる
 途しこく又ハ曲舞と一体和尚作りのり付

わきハ鬼生わり衆生あきハ山姥といふ
 冒れ刻をりそ付る付焼河影老馬
 踊りまぬのまくとみりわとと記相
 舞と付る世しこりなるハせり又こり
 地盤といふ意のむす強ハ山姥といふ
 ところを洞と袖とあま子あてわけ
 春をれをりそや志月也とぬく
 才七 敷山中堂油商人と云ふけ付
 町人の人の之坂中社権現の某坊と云ふ人の物
 油よそのと敷山全盛のみをり中堂の油料を

母のむらりと相成りくらははしとらりてまは海を
見ゆるより度くなりと口をさされいもむらり也
ととにむらりて見ゆるまは海をいや侍拜

才八 法皇御猶もこのやたるの御親友は平氏事

かへ人の云く法皇に孫は海と云ふことのお趣をよ
あると云ふよりそおけはけおひりて彼もさへけた
里まはとにむらりて事ありしなや風流御
猶の化るより代は御りし不意と云々れん先生
いふくむらりて孫は海と云ふ事ありとありま下
と略しは海と云ふことと云ふ事ありなりと孫は

たといも御わるといふ名なり法皇にむらりて
せりそれに御のさうなごもあり唐法にとも
猶のさけてそ主人と教の多き事ありそむ
まれつとさそるふ智あるもあはは徳の御も
何とそそる御膝にありしと人に別は身と人な海
うたかと思むとふ御のむらりて事ありは絶せむく引
時を必はありとく何の御ら人にさふとれと何ら
さめ事と自むらりて孫は海と云ふ事あり女は性お似りむ
るなりけ化して老女と云々人とならむと云々事
程も肉の能は御と云用より睦れ十二時おかりて

大小ろと氣味は妙況身れぼた皮の露も
 雅樂とみろ個子ありむとさ物にれそ人
 考れ猫ありと氣とけしりむるお畜をけち又
 氣よりと極びるるのほし何らんおまほし
 且又著図集は觀及は中流の山庄はくつ猫
 と何しふとむとたきバ秘苑のち刀とた出て
 玉はつ粉けた件の刀とくりと何地やらん迹失
 ぬ人の乗道たはれと知もたぬものとけ猫魔の
 變化之や人の沙汰しゆりとさるどり光角怖れよて
 百物河浮刺書之と三孫

